
主人公による主人公のための主人公

紅の雲雀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

主人公による主人公のための主人公

【Nコード】

N5532Z

【作者名】

紅の雲雀

【あらすじ】

どうも、僕だよ。

この物語は僕による僕のために僕の物語だからね。
自己中心的で自分勝手な僕の人生が綴られているだけの物語さ。
みんな号泣するような本編なんてとっくの前に終わったんだから。

これは僕の中の後日談。
君らにとっての本編。

始まり？いや、始まりませんよ（前書き）

自分勝手に書いてみた結果がこれです。

自分的に自信作で。

自分的に大変悪い作品になっております。

はっきり言って自分で何かいてるか分かりません。

ですので、苦情は受け付けません。

それではどうぞ。

始まり？いや、始まりませんよ

もしこの世界に主人公がいたら？

よく「自分の人生の主人公は自分だ」ってさ。でもそんなものじやなくて。

この世界で起きてる事件や出来事を解決する主人公。

そんなのがいたら世界は主人公の正義を振り回されるな。

主人公が「アイツは悪」って言えば悪になってみんなは悪を嫌う。

自分は正義なんだから何でもしていい。

自分は正義なんだから何しても許される。

自分中心的な考えを相手に押し付け、自分の正義のために戦う。

主人公っていう肩書きは便利だ。

「自分が正義」！　って言ってしまえばそうなる。

そしてヒロインがいるだろ？

主人公の幼馴染だとかクラスメイトとか。

ヒロインに巻き込まれて主人公はヒーローになってしまったり。

最後はハッピーエンド？

羨ましい身分だな。

それで素晴らしい仲間たちと共に戦うんだろ？

同じかどうか分からないけどその自己中心的な正義の基に戦うんだろ。

愉快なこった。

これほどムカつくことがあるだろうか？

だから僕は主人公ってものを嫌う。

というかこんな幸せな主人公もどきが嫌いだ。

本当の主人公はもっと独りで。

もっと弱く。

もっとカッコ悪い。

そんなもんだよ、主人公なんて。

起きたら電球が切れてて。

電球を行く途中で犬の糞を踏んでしまつて、子供に笑われて……。

電球のサイズが違つて取り替えてもらったため店まで行つた。

その途中「アイツ犬のフンを踏んだドジ野郎だぜ」と笑われ……

小石に躓いた。

店に行つたけど、欲しかつた電球のサイズのものが売り切れてた

……ありえないだらう普通。

こんな出来事僕の生きてきた人生の一部の出来事じらいでしかないけど。

僕は不幸体質らしい。

よく物語で不幸体質の主人公しんぷっているけど。

アレは主に女の子が関わる不幸しんぷだ。

どつかの誰かみたいに「ふこーだー」って叫べば良いのかな？

叫んだら女の子が落ちてくるのかな？

今、ここで、主人公が、「ふこーだー」って、叫んだら

物語は進むのかな？

まあ、僕は進まなくていいや。
主人公

進んだところで正義なんて興味ないし。

誰かが言う悪を正義で捻じ伏せるといふ性格してないし。

僕の相手をする人が可哀想だよ。

だからこの世界は起承転結物語の転は起こらない。

だって僕が主人公だから。

ある日の事。

なんて思わせぶり書いてみるけど何も起こらず。

僕を主人公とする世界は何も起こらず平和だった。

もしかして「主人公が世界を壊す」という物語なのでは？と思うような日常。

それか「実は僕は主人公ではなく一般人で、僕が知りえないところで物語は進んでる」とか。

まあ、僕以外が主人公つてのはないな。

だって……僕がこの世界を創ったんだし。

驚くようなことじゃないよ、だって僕主人公だし。

ほら、アレだよ。主人公なら何しても許されるってやつ。

そう、それだよ。

そんな感じで創ってみた。

前の世界は意外とつまらなかったよ。

偽善者が主人公を気取ってる世界なんてね。

だから僕は主人公らしい我俣で偽善者を自分の正義で捻じ伏せた。呆気なかったよ。

僕が散々と言ってきた主人公の自己満足や自己中心的考えや我俣で。

努力の成果も、築き上げた友情も、育まれてた愛も。

一瞬で無に帰った。

所詮は偽者、本物には叶わない……。

という感じにダークヒーローなんかより捻くれた僕だったけど。

何も起きない世界でのんびり主人公をやってる。

だけどもあ、唯一の敵といえば……。

これから現れるだろうダークヒーロー。

めんどくさいものだ……。

善も悪も全ては平等に一緒だよ

晴れの日も雨の日も風の日も。

傘も差さず、ただ空を見上げて。

誰かと群れあうことを忘れた弱者^{きみ}が言う。

——
バーカ。

ここで秘密を話そう。

重大な……とても重大なお話だ……。

少年誌の主人公にとってタブーなのは……と考えてみよう。

特殊な能力を持ってない？ 女の子にモテない？ ぼっち？

いやいや、違う。そんな些細問題じゃないよ。

少年じゃないことだ。

まあ、例外はあるけど。

例えば、もうすぐ1000巻に到達する題名の長くて噛みそうになるマンガとかね。

でも、世の中の常識では少年誌の主人公「少年」だろう？ それか少女。

何を隠そう僕は中年のおっさんだったのだ……！

という冗談は置いて話を進めよう。

少年誌の主人公のタブー……。

例えば……最初から最強無敵だったり、敵が変身してるのに攻撃

するほど空気が読めなかったり、連続殺人事件の犯人だったり。生温いギャグなんて無視した悪逆非道の人だね。

だから僕は少年誌の主人公にはなれない。

だから僕はこの世界の主人公をしてる。

平和な世界のね。

戦争も、友情、恋愛も何も起こらない世界で。

何も変わらず、何も変えず。

もし変わるとするなら、ダークヒーローが変えるのだろう。

主人公を気取って仲間を引き連れて僕を倒しにね。

だからある意味僕はこの世界の敵になるのかもしれない。

僕は“何も”してないのにね。

これもまた運命なのかもしれないけど。

世の中が平和でありますように……。

と、まあ、暇人なもので暇人らしく暇潰しを試みたりする。

だけど世界は変わらず動く。

相も変らぬ世界関心するよ。

ということ僕の正義についての講座でも開こうかな？

ん？ 興味ない？ なら仕方が無い。

それじゃあ、今日は……悪者講座を開こうか。

全ては僕の嘘だから真面目に聞いちゃダメだよ？
フィクション

それでは、始まり始まり……。

前に主人公つてものを否定したけど、特別悪者を否定しないわけじゃないよ？

まあ、悪者も主人公も寸劇を見てるのと同じだよな。

ヒーローものとかでよくあるじゃん。

負けた↓新しい力を手に入れる↓簡単に敵に勝つ↓次からそんな

に強くもなくなる。

のループ。

子供なんてヒーローが悪者に勝つところを見たいんだから。
でも僕は思うんだ。

悪者も修行すればいいじゃないか。

ヒーローばかり修行するんじゃないやなくてさ、悪者も修行して。

ヒーローを立ち直れないくらいぶちのめせばいいじゃん。

悪者も不思議な力を手に入ればいいんだよ。

ヒーローになんて負けない力をね。

物語にならない？ それでもいいじゃないか。

ヒーローすら殺す。

物語さえなりたたせない。

善も悪も混沌としてる。

そんな自己満足で書いたような物語。

まあ、そんな物語がこれなんだけど。

本日はこれまで。

お終い、お終い。

これが僕の日常

たぶんそれは幸福でした。

永い時間求めていた幸福でした。

幸福は暖かくて気持ち良い。

こんな気持ちは初めてでした。

言葉にできないけど、ありがとう。

えー僕ですよー僕。

3話にして名前も明かさない、会話もしない。

主人公として主人公という概念をぶっ壊してますよ。

まあ、前置きはさて置いて。

今回は物語らしく“青春”と呼べそうな“何か”をしましょうか。

“何か”？

友情？ 恋？ 学業？ スポーツ？

さて、これ全てを行える場所があるでしょう？

ある程度の主人公は通うものだね……学校に。

だから今回は僕が学校に行くという、ただそれだけの話。

あ、一応言っておくと不登校ではないよ。

はい、ここで会話が行われると思った？

さんねーん、会話なんてしないよ。

だって僕の物語だからさ？ 普通に会話なんてしないよ。

とまあ、書くけど、今はやる事が無いのだよ。

授業……まあ、先生と呼ばれる人間が道德という授業で妄言を吐いているんだよ。

だから学校という場好かない。

それに僕には勉強つてものが足りないからね？

主人公つてのは勉強が出来る人や出来ない人がいるけど。

僕は全てにおいて最強なのさ。

だから勉強なんてやる理由がないし、それに僕という人間が道德なんていうくだらない授業を受けるのなんて苦痛以外の何でもない
うぜえ……コイツの存在を無かったことにしてやるのか……。

何が親切だ、そういう偽善者みたいな事を言う奴ら全員むかつく。

とりあえず、道德の授業が終わった。

何というか帰りたい……。

つまらない……大学生が小学1年生の勉強を教えられるみたいに
つまらない……。

だからここで初めて主人公らしく能力つてやつを使おうかな。

主人公らしく、主人公らしくない用途で。

『ーことで『分身』。』

まあ、忍者物でよくある分身の術？

そんな感じで僕の偽者を椅子に座らせ僕は屋上へと足を運ぶ。

今は春。

やっぱりと言うか時期的には、まだ寒い。

だけど屋上から見る景色とやはら綺麗だった。

僕に綺麗な物が綺麗と分かるかだって？

そりゃあ分かるさ。だって人間だから。

これでもキチンと人間らしく、それこそ夏に虫取りをする少年み

たいに元気な少年だった時期ぐらいある。

とりあえず寝よ……。

寒いからと言っても流石に春独特の空気を吸うと眠たくなる。

そして僕は『4次元ポケット』から毛布を取り出した。

さて、どの場所で寝ようかな。

人に見つかりやすい場所だと後々めんどくさそうだし。

……さて、ここで質問だ。

屋上で寝ている生徒（女子）がいる。

主人公の選択は！

？襲う

いや、これは流石に止めとこう。

？一緒に寝る

そこからいろいろ関わることになりそうなのでパス。

？無視

うん、これが妥当だ。

というか、この場所から離れよう。

ここにいてだけで物語が進みそうだ。

ということで僕は授業をサボるために音楽室に向かった。

たしか今の時間帯は使われてないはずだから。

そして「分身に全て任して帰ればいいじゃん」というツッコミはナシね。

音楽室……それは音楽の授業を受ける場所。

また放課後は吹奏楽部が使っていたりする場所。

そして今はまだ授業中。

でも今は音楽の授業はない。

だけど何だこのピアノを弾いてる少女は……。

しかも上手いときたか。

でも物語が進みそうなのでパス。

ここまで2箇所行つて2箇所共に女の子がいた。

つまり僕が行く場所は大体の確立でヒロインとなりそうな女の子がいる。

家の隣の少女、遅刻しそうでパンを加えて走る少女、図書室にいる文学少女。

どうやら僕が創つたはずの世界は僕の気を知るか知らないか分らないけど、僕を主人公にしたいらしい。

だから僕はフラグは立てないし、フラグが立ちそうな場面に出くわすと逃げる。

ちなみにこの世界が平和なのは僕がいるから。

本当のこと言うと数年に1度、“悪”と呼ばれる奴らが何か企てるから。

平和が大好きな僕は大事になる前に“悪”の芽を摘む。

これがこの世界が平和な正体。

これが僕が主人公として目立たない理由。

自分では自分の役割は、世界の平和を守る主人公だと思ってるよ。だからそんな意味では主人公として頑張ってるんじゃないかな。

主人公として世界を守る。

これが僕の日常物語なのかもしれない。

まともに自己紹介？まずは“まとも”を教えてください

時に迷いました。

迷路みたいな左や右に行ったり。

それがただ楽しくて、ただ悲しくて。

矛盾とも言える感情も嬉しく感じました。

だから僕は君を好きになりました。

どうも、僕だよ。

自己紹介をしよう。

僕です。

好きなものはないです。

嫌いなものもないです。

一応主人公やってます。

だけど主人公らしくありません。

どちらかというとダークヒーロー寄りです、もっと捻くれています。

ヒロインはいません、友達もいません。

昔も今もきつと未来も独りぼっちで物語に生きます。

楽しくありません。

嬉しくありません。

寂しくありません。

悲しくありません。

僕は主人公だから何でもできます。

独りで生きていきます。

後悔をしないように。
後悔をさせないように。
僕は今日も独りぼっちの物語に生きます。

……と、まあ無駄に言葉を並べてカッコよく見せたりする。
というかネタ切れなんだよ。
誰とも喋らず、物語が進まず。
何をしろと言っただ……？
まあ、何もしないけど。
僕の戦闘パートなんて見ても誰も得しないだろうし。
すぐに終わるだろうし。
今日あったことを話そう。

4月19日、晴れ。
今日も世界は平和に回っている。
そしてクラスメートの頭も狂ってる。
やっぱりと言うべきか、主人公のクラスメートはバカばかりだ。
エロ猿とか。
まあ、今日もいつもどおりの代わり映えのしない毎日の中の1日
だった。

日記的な感じで今日のあったことを書き綴ってみただけ。
日記って意外とつまらないものだな……。
日記って読み返してみると面白いものだけだ。
僕のは面白くなさそうだ。

日記で思い出したけど思い出か……。
そんな物僕にはあったっけ？

なんて惚けてみるけど、確かにあつた。

忘れたくても忘れられなくて、今すぐになでも忘れてしまいたい過去。

そんな物が僕の中にまだある。

ああ、止め止め。

こういうのは苦手なんだ。

過去がどうか、そういうの僕のようなことじゃないし。

空気を読まず、おどけた仮面で踊るほうが僕らしいよ。

まあ、やらないけど。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5532z/>

主人公による主人公のための主人公

2011年12月22日13時48分発行